

2022年度通期

継続

科目No.	関連講座GR577e	科目名	規範科学事例研究5(論議の輪)				副題	文理融合の視点をもつ規範科学(レギュラトリーサイエンス)を健康・生活・経済・社会・環境へのリスクを例に論じる			
連携機関名	化学生物総合管理学会	水準	中級	教室定員	0	配信定員	30	講義日時	通年隔月第1水曜日 19:00-21:00	拠点 (開講機関)	リモート・横浜戸塚 (知の市場)
科目概要(300字)	好奇心や欲望に突き動かされ20世紀初頭から知の爆発が始まった。知の暴走を制御し知の創造とともに知の伝搬を促して社会変革へ繋げる社会のための科学(Sciencefor Society)や政策のための科学(Science for Policy)のひとつとして、科学的方法論と知的説得によりリスクの顕在化を未然に防止する規範科学(RegulatoryScience)が提唱されている。規範科学の文理融合的な特徴を踏まえながら、今年度は、コロナ禍で顕在化した生命や生活の安全保障における日本の弱点克服のため、労働保証制度やベーシック・インカムといった規範・制度など、下に示す内容に捉われず参加者が提起する多様な論点に論議の輪を広げ、その意味と意義を論ずる。										

科目構成	No.	講義	講義概要(150字)	講義日	開講場所	取纏め者	講師	所属
はじめに (これまでの復習)	1	社会規範と科学的方法論	科目の目指すところと講義の進め方について概説するとともに、この科目の理解の基本となる規範とは何か、科学的方法論とは何かを紹介し規範科学とはなんであるかを論じつつ、諸々のリスクの未然防止におけるその意味と意義について問題提起する。	2022/5/4	Zoomを 活用して リモート 開催。	増田 優	増田 優	お茶の水女子大学 名誉教授 早稲田大学 規範科学総合研究所 招聘研究員 社会技術革新学会 化学生物総合管理学会 会員
社会的危機に備える 社会的規範	2	危機管理と合意形成	社会が直面する危機を円滑に乗り切るうえで、社会的規範が持つ意味と意義を検証しつつ、その制定や運用に必要な社会的合意形成において科学的方法論が果しうる役割について論じる。					
	3	事例の検証	社会に大混乱をもたらした石油危機を振り返りながらその時の石油備蓄・融通制度などの諸々の法令や制度を検証しつつ、石油需給適正化法に基づく石油使用の優先順位の策定・運用の実態を踏まえて法令の制定や運用のあり方を論じる。	2022/7/6				
	4		伊豆大島の噴火による全島避難という危機への対応を検証しつつ、その後の東日本大震災や福島原子力発電所事故などの諸々の危機をも視野に入れながら、法令の制定や運用に止まらずさらに急いで・充実して行くべき社会的規範について論じる。	2022/9/7				
国際的紛争における 規範の意味と意義	5	日米貿易紛争と 社会的・国際的な規範	第二次大戦後の経済の復興とともに繊維、鉄鋼、テレビ、半導体、自動車などの分野でダンピング提訴から始まる日米貿易紛争が次々と発生し、日米貿易協定の結果、日本による自主規制が行われることとなった顛末を検証しつつ、その功罪について論じる。	2022/11/2				
	6	事例の検証	ダンピング提訴から始まった日米のフィルム紛争は、日米協議を通して日本による自主規制という結末に至るという定型とは全く異なる経過をたどり、最終的には世界貿易機構(WTO)において日本側が勝訴した経緯を検証しつつ、その成否の決定要因を論じる。	2023/1/4				
	7		米国大統領の日本国総理大臣に対する新書から端を発した日米タイヤ紛争が、日米協議による日本の自主規制という結末とも世界貿易機構(WTO)における勝訴という結末とも異なる形で収束した経緯をた経緯を検証しつつ、その成否を決めた要因を論じる。	2023/3/1				
まとめ	8	総合討論 生活安全保障と社会規範	化学物質、放射線、病原生物などのもたらすリスクや地震、津波、台風などがもたらすリスクとともに飢餓や失業などがもたらすリスクや貿易紛争といった国家間の緊張がもたらすリスクなど幅広い視点から生活の安全保障をとらえながら、その維持向上のために社会的規範が果たす役割と技術革新、制度改革、人材改新、社会変革との係わりについて討論する。					